

令和4年度 第2回赤磐市総合教育会議議事録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年2月16日(木) | 11時00分~12時00分 |
| 2 | 会議場所 | 本庁2階 大会議室 | |
| 3 | 構成員 | 市長 | 友 實 武 則 |
| | | 教育長 | 土井原 康 文 |
| | | 教育長 | |
| | | 職務代理者 | 大 崎 陽 二 |
| | | 教育委員 | 山 本 賢 昌 |
| | | 教育委員 | 平 松 由 香 |
| | | 教育委員 | 遠 藤 益 恵 |
| 4 | 関係者 | 保健福祉部長 | 谷 名 菜穂子 |
| | | 社会福祉課長 | 原 田 光 治 |
| | | 子育て支援課長 | 和 田 美紀子 |
| | | 教育次長 | 有 馬 唯 常 |
| | | 教育総務課長 | 金 島 正 樹 |
| | | 学校教育課長 | 森 本 治 |
| 5 | 事務局 | 総合政策部長 | 山 本 幸 治 |
| | | 秘書広報課長 | 小 引 千 賀 |
| | | 秘書広報課 主幹 | 矢 吹 文 彦 |

○事務局：令和4年度第2回赤磐市総合教育会議を開会します。皆様よろしく申し上げます。それでは、市長からごあいさつをお願いします。

○友實市長：皆さんおはようございます。本日は、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。赤磐市の教育行政について、ご報告あるいは、中間報告も含めて会議を開催します。本日の会議次第、その他の項にありますが、スポーツ健康まちづくり優良自治体表彰をいただきました。スポーツ庁の室伏長官から直接、表彰状をお受けしました。中国地方で唯一赤磐市が、表彰を受けた自治体でした。赤磐市を認めていただき、光栄な出来事でした。そして、ふるさとの水土里子ども絵画展。農林水産大臣賞をいただきました。これも岡山県の長い歴史の中で、初めて賞をいただきました。この栄誉を皆さんと共有したいと思います。話は変わりますが、人口の転入者と転出者の差し引きで、転入者が多い現象を転入超過と言います。赤磐市は転入超過している自治体の1つです。赤磐市の人口は約4万3,500人、岡山県内の自治体では8番になります。児童・生徒数については、白陵中学校に通っている生徒数を除いた実数では、岡山県内で5番となります。人口比で比べてみると、子どもの比率が1番高いのは総社市で、次に赤磐市となります。これは赤磐市の将来にとって、すごく有意義な数字であり、逆に言うとこれを維持しなければならないと考えています。赤磐市で子育てしようと思っている市民の皆さんが大勢いらっしゃる。市民の皆さんの期待にこたえるため、教育を充実する。もっと言えば、子育ての支援をする。そういう行政としての大きな責任を背負っていることを再度認識しました。赤磐市の小学校・中学校で楽しく健やかに育った子どもを社会に送り出していくということが、私たちの大きな責務です。これから先の教育行政、皆さんと一体となって、英知を結集して進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局：それでは、以後の進行につきましても引き続き、市長をお願いいたします。

○友實市長：協議を開始します。それでは協議事項の1番、赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケートの進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

○森本学校教育課長：赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケートの進捗状況についてご報告します。昨年の年末から1月中旬にかけて、赤坂地域の全世帯にアンケートを郵送しました。目的は、赤坂地域の3小学校、石相小学校・軽部小学校・笹岡小学校の今後を考えるため、地域の多様な実情や意向を明らかにし、魅力ある学校づくりの参考とするということです。現在、回収したアンケートの集計分析をしています。本日も報告できるのは、アンケートの回収率についてです。全体の回収率は、配布数1,758世帯で、回収は685通の39.1%です。3小学校区で分けて分析して、回収率を出しています。石相学区が864世帯で、回収が316通の36.7%。軽部学区が572世帯で、回収が230通の40.4%。笹岡学区が322世帯で、回収が138通の43.3%でした。回収率は学区において差がありますが、大体40%前後の回収率でした。全体が39.1%ということですが、市が実施している他のアンケートの回収率と比較しても、同じくらいの回収率と聞いています。一定の回収ができていますと思っています。

○友實市長：赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケートの進捗状況について、質問もしくはご意見ございましたらお願いします。回収率だけなので、意見がしにくいと思います。大崎委員どうでしょうか。

○大崎委員：感想になります。39.1%の回収率はどうなのかと思っていましたが、一般的なアンケートとそんなに変わらないということで安心しました。資料を見て思うのが、児童数の少ない学区が、回収率が高くなっているということです。笹岡学区は、138通返ってきてくださっている。児童数が回答数以上はないということを考えると、地域の方もアンケートを書いてくださっているのだと思います。前回、学校統合の話があったとき、保護者・若い方たちは推進してくれたら良いなという意見があったのですが、地域の皆さんからは、小学校がなくなったら活気がなくなるのではないかという意見が多数あったということなので、アンケートの中身をしっかりと確認させていただきたいと思います。

- 山本委員：回収率は他のアンケートとほぼ変わらないということですが、回収率が40%近いというのはあまりないのではないかと考えています。他のアンケートよりも回収率は高かったのではないかと考えています。
- 友實市長：回収率だけを見ると、比較的高い方だと思います。皆さんの関心の高さがうかがえます。市長としての方針を言いますと、どちらの方向になるかわかりませんが、いずれの方向性が出て、現状を継続する、あるいは、単純に統合するだけではすまないと思っています。将来に向けて、何らかの規模、例えば統合が嫌だと思っている皆さんも、納得できるものがあるかもしれません。その逆もあります。今まで通りでなく、市民の皆さんに安心が届けられるような、学校のあり方、こういったことを合わせて、皆さんと共有できるように発表ができたかと思っています。方向性が出て、それに付随して、どういう学校のあり方を目指すのかということをお皆さんと一緒に議論し、方向性を定めていきたいと思っています。アンケートの集計が出たら、もう一度会議を開催したいと思っています。よろしくをお願いします。
- 友實市長：協議事項2番、未来が見える学校プロジェクトについて、事務局の説明をお願いします。
- 森本学校教育課長：前回の8月に開催した総合教育会議で「未来が見える学校プロジェクト」の3つの改革についてご説明しました。今年度も3つの改革は、引き続き進めています。特に力を入れているところは、3年目を迎え、一定の成果も見えてきており、市内・県内の学校に取り組みや考え方を広めるため、様々な広報を行っていることです。まず、訪問や取材ということで、いろいろと取り上げられています。小中学校からの訪問があり、小学校1校、中学校5校に対応しました。岡山大学の教職大学院からも訪問がありました。岡山県での取り組みで、授業改革推進チームが県内に幾つかあり、倉敷市の中学校の授業改革推進チームから視察訪問があったと聞いています。報道関係としては、山陽新聞、読売新聞でも取り上げていただきました。瀬戸内海放送では、定期テストを廃止した学校ということで取り上げていただき、放送していただきました。2点目、学校公開週間の設定について説明します。学校でも積極的に、地域や市内の教職員に広めていこうと、年4回の学校公開週間を設けて、家庭・地域の方々へ取り組みを広めています。回によっては100人ほどの参加があり、たくさんの方が興味を持ってこの取り組みを参考にしようとお越しいただきました。3点目、教科書会社のリーフレットの中でも3つの改革の取り組みを紹介して掲載していただきました。これらの取り組みで子どもたちがどう変わったのかについて説明します。5ページをご覧ください。4月に全国学力学習状況調査が行われ、毎年中学校3年生が受けています。その中で質問調査があります。未来が見える学校プロジェクトで、子ども達の意識がどのように変化したか、4つのデータを示させていただきます。まず1つ目の「学習した内容についてわかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげているか」という項目です。普段やっている学習を自分で振り返って、次につなげて改善する意識がどのように変化したかということです。全国で74.7%、岡山県も同じ74.7%でした。桜が丘中学校は86.9%。10%以上高い数字が出ています。こういうことがしっかり意識してできているという結果だと思っています。次に、「授業では自分で考え自分から取り組んでいた、また、家で計画を立てて学習に取り組んでいるか」という項目です。こちらも、全国や県の平均よりも高い数字が出ています。この取り組みが3年目を迎え、今の3年生がこの3年間の改革の中で、学校生活を送っており、子ども達の意識が随分変わったということも、この結果からわかっていただけたと思います。
- 友實市長：事務局の説明に対して、質問、ご意見がございましたらお願いします。
- 大崎委員：単元テストについて、中学生にとって予習、復習、テスト勉強がやりやすいと思います。グラフがありますが、生徒もやりやすいと感じていると思います。私も何十年か前に中学生でしたが、中間テストとか期末テストは範囲がものすごく広いので、試験前には、夜遅くまで勉強していました。単元テストだとそういうことを、そんなにしなくても良いのではないかと考えています。全国学力学習調査は1年間に学習した中から出る。単元テストの結果も上がってきていけば、高校入試につながるのではないかと感じます。入試のため勉強するわけでは

ないですが、結果が出ていれば嬉しいなと思います。

- 森本学校教育課長：テスト範囲が広いと、テストに向けた勉強になってしまうところがありますが、単元テストは定期的に比較的短いスパンでテストがあるので、回数が増えるということはありませんが、少しずつ、いつも学習するという姿勢が身についていくのではないかと考えています。学力調査などの結果に結びついていけば良いですが、必ずしもそういう状況ではないと聞いています。単元テストは知識・技能を、まとめテストでは判断力・表現力に特化したようなテストをしていると聞いています。そういうものを組み合わせながら、大崎委員がおっしゃられるように学力調査などでも、力が発揮できるようにしていけたらいいと思っています。また、それらの取り組みとあわせて、教員の授業改善を進めていかないと、子どもたちの学力の定着に結びついていかないと思います。一体的に見て、全体的に底上げしないといけない。その辺りも学校で進めていこうと思っています。
- 大崎委員：学力的に自信がない、また、勉強する習慣がない子どもにとっては、単元テストで毎日のように少しずつ勉強していくことが、結果に繋がっていくと思いますのでプラスになるのではないかと考えています。
- 遠藤委員：「未来が見える学校プロジェクト」が始まった当初、1年目はまだまだその考え方が保護者や生徒に浸透してなくて、子どもたちは、単元テストはある、まとめテストもある、それに実力テストもあるということで、一年中ずっとテストを繰り返している感覚で「またテスト、またテスト」というぼやきも聞こえていたような気がします。しかし、これが今3年目となり、子どもたちの考え方が大きく変わってきているように感じています。単元テストをすることによって、結果が出る。単元テストであまり点数が高く出なかった子ども達は、再テストをすることで評価をしてもらえます。点数で評価をしてもらえるのではなく、再テストをして、頑張った努力をしたことが評価されることがこのプロジェクトの大きなポイントの1つではないかなと感じています。まとめテストでは、より思考力、表現力を問う問題多く扱っているということで、子どもたちが書くという作業において、特に抵抗なく長い文章を書いたり、自分の考えをまとめたりする力が大きく伸びているように感じています。これが大きい成果ではないかなと考えています。テストを繰り返す。再テストもできる。日常のこの学習への習慣が、非認知能力を育てていこうと言われていますが、子どもたちの点数が再テストによって上がった、頑張った、努力したことに対して評価をしてもらえます。そういうことへの自信、そして、勉強をコンスタントに1年間続けていく学習への忍耐力が子どもたちについてきているということが大きい成果だと感じています。中学3年生は受験真ただ中にいます。この3年間を過ごしてきて自分たちはやり切った、頑張ったという大きい自信を持っていると感じています。本日の資料のデータを見ていない段階で、私はそのように感じていましたが、データを見せていただき、やっぱりという思いがしています。
- 友實市長：ありがとうございます。他にご意見はありませんか。
- 平松委員：大崎委員や遠藤委員のお話を聞き、納得する部分がたくさんありました。資料を見て、全国・岡山県よりも、自分で自分を肯定している状況が見えて、赤磐市の子どもたちが、このプロジェクトを進めることによって、気持ちだけではなく学力もついて、本当に未来が明るい状況にあると思いました。これからも頑張っていたきたいと思います。
- 友實市長：3年前このプロジェクトを始めるとき、私自身がドキドキでした。1年後、地域からの反対意見をたくさん耳にすることがありました。その時、不安になりながらも、1歩前に出たのだから、ここで舵をきるわけにはいかないと思い続けてきました。ネガティブな意見もありながら、前向きな意見も多く聞こえてくるようになり、現在3年目です。桜が丘中学校のスタンダードになりつつあるというのが今の実感です。その結果が、生徒の意識に現れてきている。大きな手応えを感じています。だからといって、現状に満足せず、常に上昇志向を持って、注目もされていますので、教育委員会、学校現場、先生方と協力しながら前に進めていくことが、新たに我々の責務として加わったと思っています。まだまだこれからです。皆様方の温かい目、次に向けての目線を持ちながら、進めていきます。よろしくお願いま

す。次にうつります。各種事業進捗状況について事務局より説明をお願いします。

- 谷名保健福祉部長：子どものワクチン接種とマスクの着用について、ご報告をさせていただきます。子どものワクチンの接種状況をまとめています。12歳から19歳までは、ワクチン接種が進んでいる状況ですが、0歳児から4歳児までの接種率は、上がってない状況です。マスクの着用について、令和5年2月10日に、国から新型コロナウイルス感染症対策本部の決定が示されました。国内国外を問わず、個人の判断にゆだねることを基本とするという大前提はありますが、国においても、着用が効果的な場面について、今後、しっかりと広報で周知していくようです。卒業式にマスクを外すかどうかについても議論をされており、赤磐市でも方向性が今議論されているところです。
- 森本学校教育課長：卒業式のマスク対応について説明します。2月10日に文部科学省から通知が来ました。2月13日には岡山県からも通知が来ています。赤磐市教育委員会としましては、この国県の通知に従った対応していこうと考えています。その対応の概要ですが、児童生徒及び教職員は、式典ではマスクを外すこと基本としますが、歌を歌う場面では、マスクを着用します。来賓や保護者の皆様につきましては、マスク着用を求める予定です。幼稚園につきましてはマスク着用を一律に求めていなかったという今までの現状がありますが、小中学校の取り扱いを参照しながら進めていきます。引き続き、地域部活動の取り組みについてご説明します。令和3年度と令和4年度に、国の研究指定を受けて、磐梨中学校で先進的な取り組みを進めています。資料は、スポーツ庁のホームページで示しているものを掲載しています。約2年間取り組みを進めており、地域連携部活動推進協議会、磐梨ドリームタウンプロジェクト委員会を設立して、地域部活動について検討しています。指導者も約40名。地域指導者ということで、登録をして進めています。2年間の取り組みで、地域の指導者と学校が、磐梨ドリームタウンプロジェクトの進めるもの、意図をしっかりと共通理解できていて、順調に進んでいると聞いています。地域の理解も着実に進んでいます。この取り組みを進めていく中で課題も見えてきています。1番の課題は、指導者への報酬です。現在は国の研究指定を受けて国からの補助金で進めていますが、来年度に向けて、検討していかなければなりません。指導者の方に長く指導していただくためにも、今後、スポーツ少年団や体育協会とどのような連携を図っていくのかが大きな課題だと捉えています。環太平洋大学の学生さんを派遣いただいて、朝の部活動指導も実施しています。
- 和田子育て支援課長：りんくステーション（子ども・障がい者相談支援センター）の機能強化についてご説明します。りんくステーションは相談を受け付ける機能を持った、子ども・障がい者相談支援センターです。現在は、子育て支援課と社会福祉課があります東庁舎で相談を受けています。資料の図、子ども・障がい者相談支援センターの中に4色違う丸印があります。緑色の部分、子ども家庭総合支援拠点機能が、正式に3月1日に加わることとなりました。子ども家庭総合支援拠点は、虐待に特化した機能です。国の情報を共有するシステムと3月1日に正式に接続します。赤磐市では、今年度の4月からすでに保健師、助産師を増員しまして、妊娠期からのご家族の支援をすでにスタートさせています。次に、子ども家庭庁関連予算の基本姿勢という資料についてです。子ども家庭庁ができてどうなるのかですが、資料の緑色の四角・青色の四角で囲まれているところの色に注目してご確認ください。青色の四角が学齢期、文部科学省の所管部門です。その下のグラデーションがかかったところ、赤字で書いてある事業がありますが、子ども家庭庁の事業として、予算計上しているという資料になっています。4月になると詳しい施策の情報なども入ります。市としましても、そういった情報をしっかりとキャッチしていきます。
- 友實市長：事務局の説明に対して、ご意見ご質問がありましたら、お願いいたします。
- 山本委員：卒業式のマスクについて、教職員と児童生徒は基本的に外す、歌を歌う時は付ける、保護者にはマスクの着用を求めるということですが、なぜそこに差をつけるのでしょうか。理由を説明して、文書で配っておかないと疑問を持つ方がいると思います。
- 友實市長：事務局いかがですか。

- 森本学校教育課長：ご意見ありがとうございます。保護者にマスク着用を求めることについて、強制はできないと思います。協力をお願いするということになると思います。国の通知にも、保護者に理解を求める、説明するということがあります。学校通じてとなりますが、不満につながらないようにしっかり丁寧な説明していきます。
- 山本委員：保護者に「よろしく願います」というくらいでは納得は得られないと思います。どうして教職員がマスクを外して、保護者は着用しないといけなのか。説得できる理由で書いて渡しておかないといけないのではないかと思います。
- 森本学校教育課長：保護者の方に納得していただける説明をしていきたくと思っています。
- 友實市長：山本委員が求めているのは「合理的な理由を持って保護者にどのような説明をするのか」という質問だと思います。単純に説明しますという答えでは不十分だと思います。国から通知が来ているなら、ちゃんとした理由があると思いますがいかがでしょうか。
- 森本学校教育課長：少しお時間いただいてよろしいでしょうか。
- 友實市長：わかりました。事務局は、山本委員の質問に答えられるようになったらお願いします。それでは次の、その他の項目に移ります。
- 小引秘書広報課長：会議の冒頭、市長があいさつの中でご説明しましたので、簡単に説明します。スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰につきましては、赤磐市役所の様々な部署や関係団体が協力し、スポーツを通じたまちづくりや健康づくりを推進したことが評価され受賞したものです。また、ふるさとの水土子ども絵画展農林水産大臣賞受賞につきましては、山陽小学校の児童が受章した記事を掲載しています。
- 友實市長：ご質問などありましたらお願いします。
- 山本委員：スポーツ健康まちづくり優良自治体表彰ですが、ホッケーを通じた国際交流が評価されていると思います。東京オリンピックが1年延びて、カナダとニュージーランドと繋がった。非常に良かったと思っています。これからも、国際交流ができれば嬉しいと思います。
- 友實市長：ホッケーニュージーランド女子チーム、カナダ男子チームをお招きしました。また、アイルランド女子チームには全日本女子チームと一緒にキャンプをしていただきました。こういった事業は継続をすることが大事です。つい先日は、ニュージーランド女子チーム選手に赤磐市を訪れていただき、子どもたちと交流していただくイベントを開催しました。大切なのは、子どもたちに国際感覚を持ってもらうこと。外国は遠い存在ということではなく身近な存在として感じる事が、グローバルな人材を育てていく上で大事。私自身も学ばせていただきました。
- 森本学校教育課長：山本委員のご質問にお答えします。新型コロナウイルス感染症対策本部が決定した、マスク着用の考え方の見直しを再度確認しました。3月13日からマスク着用の考え方の見直しが適用されますが、学校におけるマスク着用の考え方の見直しは4月1日から適用することとし、それまでの間はこれまでの考え方に沿った対応となっています。学校における活動は、3月までは今までどおりとなっています。ただし、4月1日より前に実施される卒業式におけるマスク着用については、卒業式の教育的意義を考慮し、児童生徒はマスクを着用せず出席することを基本とするとなっています。卒業式は、特例といいますか教育的意義という部分で良いということになっています。子どもの思いを第1にという対応です。しかし、学校では、通常の感染対策をすることが基本なので、保護者については、マスク着用についてご理解いただきたいと考えています。今の説明でも納得されない保護者の方はいらっしゃるかもしれませんが、理解を求めていく。そういった対応していこうと考えています。
- 友實市長：保護者に子どもを主体に考えた対応であることをお知らせし、ご理解を求めていくことになると思います。よろしく願います。事務局は他にありますか。ないようでしたら、委員の皆さん、今までの話題以外でも何かありましたらお願いします。
- 山本委員：前回の会議でも話題にさせていただきましたが、以前にAMD Aと提携して、スリランカに中学生を派遣した事業がありました。この事業を、来年度は難しいと思いますが、再来年度ぐらいから始めていただければ大変ありがたいと思います。ご検討よろしく願います。

○友實市長：子どもたちが、スリランカに行って帰った後の成長は著しいものがありました。できる限り継続したい。現在は新型コロナウイルスの感染拡大と、スリランカが国の債務超過ということもあり不安定になっていますので、スリランカということではなく、同様の効果を求めて、子どもたちに貴重な体験をしてもらいたいという考えに変わりありません。皆さんもご理解をよろしくお願いします。他によろしいでしょうか。それでは、これもちまして、令和4年度第2回赤磐市総合教育会議を閉会します。